

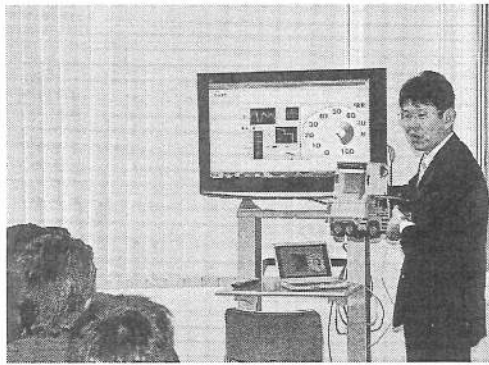
北ト協

コンテナの重心検知

実証実験 トレーラ横転事故を防止

北海道トラック協会(伊藤昭人会長)は、トレーラの横転事故防止を目的に、重心検知協会と共に「三次元重心検知システム」の実証事業を2月18日から開始している。全国初の取り組みで、事業の評価検討委員会(中辻隆座長、北海道大学名誉教授)を立ち上げ、同システムの普及を図る。(北原進之輔)

三次元重心検知システムの説明
をする東京海洋大学の渡辺教授



実用化へ検討委設置

実証事業には栗林海陸輸送(栗林和徳社長、北海道苫小牧市)と伸和物流システム(久保和征社長、札幌市北区)が協力。装置をトレーラに装着し、運用データを検証する。

同システムは、委員でシステム開発者でもある渡辺豊・東京海洋大学教授が2006年に特許を取得。本州のテストコースや鉄道、船舶などの実験を経ながら、改良を重ねている。

栗林海陸輸送は道内の海上コンテナ、伸和物流システムは本州に向けた冷凍・冷蔵コンテナを運ぶトラックにそれぞれ機器を搭載。営業車両に装着して公道を走る実証実験は初めてとなる。凍結路面などの走行デ

ータを取り、本格的な実用化につなげる。

装置はヘッド側の連結部付近に取り付け、直進走行20秒でシャシー側の重心を検知。運転席に設置したディスプレイに、重心や横転の危険度などが表示される。取り付けに車体改造は不要で、メーカー、車種、車両の新旧は問わない。

海上コンテナ部会の森谷哲嗣部会長は「トレーラは、

けん引することで貨物の重さを感じるが、コンテナ内の片寄りまではプロドライバーでも分からない。そこがトラックとは大きく異なる。安全運転においてコンテナの重心は貴重な情報になる」としている。

検討会のメンバーは中辻氏、渡辺氏のほか、岸邦宏

・北海道大学大学院准教授、松原克志・常磐大学教授、北ト協海上コンテナ部会など。今後、実証実験のデータを解析し、4月に第2回の検討委を開く予定。

2月18日開いた検討委の初会合で、渡辺氏は日本で最も過酷な輸送環境にある北海道で実証されれば、国内、ヨーロッパでも通用すると考えていると話した。